

設立半世紀を機に変革に挑む



登録種別はコンサルだ。

同社がZEBへ注力するきっかけについて酒井曰喜雄社長は「顧客の財産ともいえる建築物の設備更新や新設に対して、如何に付加価値を付けることが出来るかといった見地に立って顧客満足度向上を旨に思いついた」

え新潟という地域性に則
った消雪設備工事を加
えた給排水・衛生設備工
事全般がほぼ主流とな
っており、現状の構成比
率は空調・換気9に対
して給排水・衛生が1と
いった

デマンドコントロールやEMSによるエネルギー使用の見える化・最適化や太陽光発電やバイオマス発電などの再エネに関する工事を行っている。そして、こうした自社での企画提案か

などの先進的取組みのみならず、企業としての発信力にある。特に設立50周年を契機にその「変革」は加速度を増している。積極的に変革に挑む。企業力ラーを前面に打ち出すことで社内の機構改革や協力業者との関係性の維持と強化。内製化、

を捉えることで風通しが良くなった。互いに情報共有と横断が可能となり、個々の意識改革も図られ、モチベーションは喚起されている。各人が自身で考え最良の応えを導き出すといった自律した執務体制が実現出来ている」と話す。

あるが「仕組みの提案はトップ、精査は事業部、決裁は社員」といったような新たな企業形態の構築にあるように見える。

加えて同社は健康経営、環境経営を推進することで地域貢献、社会貢献へも寄与。がん対策をはじめ、従業員の健康維

と話す。現在、同社では2025年度内に自社が受注するコンサルティング業務のうち、ZEBが占める割合を50%以上とすることを目標に掲げている。現状は目標に向けて推進中であり「先ずは目標を掲げて社内の人々

る熱源設備や熱搬送設備。また空調機等の新設・更新や工場などで使用される大風量の給排気設備や局所排気設備等の新設・更新といった一般空調・換気設備と平準体や精密機器、医薬品、食品製造用余の生産施設など

酒井社長は「管工事業を主体に事業を形成しているが、近年の受注傾向が空調・換気に傾いている。これに伴い給排水衛生に対する技術力が疎かとなることを危惧しておる。意識的に「専攻」を努めて

ら設計、施工をワンストップで取り纏め、要として専門部門による設備保守点検・修理を行う。

また冷媒回収事業所登録を行っていることからフロン充填・回収及び証明書発行業務等、フロン排出抑制法に係る各種業

直営化の推進や顧客に対する営業手法など次々と手を付けて成果を現わしている。

例えば現在、同社は？事業部制を敷く。ファシリティー事業部とエソジニアリング事業部で旧態の営業、技術とハット土切

同様に長年、協力業者との協業体制を培ってきたが改めて世代交代や今後の維持継続のために昨年9月に「研冷工業安全衛生協力会」を発足し、第1回安全大会を実施した。これにおいても社内

持をサポートするための様々な施策やボランティア清掃活動、新潟工業高校で行われる「出前PR講座」といった出前授業やインターンシップの実施。さらに就労困難者の社会的自立・社会参加の一助となる社会福祉支援

その一方で早期より、
ZEB (Net Zero
Energy Building ネット・
ゼロ・エネルギー・ビル
の略称) に対する知見を
集積し施工案件、保守案

トルを合わせるための指標と捉え、中期的な実現を目指している」と酒井社長はコメント。

さて研冷工業における事業領域としては空調・衛生・電気設備の設計・

どの新設・改修へ中温・低温、パッケージエアコン等の産業用空調設備やクリーンルーム用・ドライルーム用設備の工事といった産業用空調・特殊空調設備を担う。

いる」と話す。

さらに電気設備については1級電気施工管理技士6名、2級電気施工管理技士2名を持って照明設備から受変電設備まで建物に必要な不可欠なイン

務も担っている。

このうち同社が取り組んだZEB化事業の代表例としては2020年8月から2021年1月のコロナ禍において1年半にわたり新潟市北区の特

りをコンテンツ毎に整理・統合した。ファシリティ事業部は営業開発部、設備部、リニューアル部、工務課をエンジニ

させて、協力会としての立ち上げから安全大会事施までをフオーローするといった新たな形を構築し、いわゆる社員が主役として前に出る形をとった。また「

などを行っている。

また直近では中小企業家同友会全国協議会より同友会工奨励賞の表彰や特別養護老人ホーム「ながつらの郷」におけるE.B化実証事業に対して

費する年間の一時エネルギーを省エネと創エネによってゼロを目指す取組みで顧客満足度（CS）を高める取組みに注力している。同社がZEBブラunner登録事業者となつたのは2017年（平成29年）で全登録事業者では107番目となる。

A black and white photograph showing a large, rectangular industrial air conditioning unit being hoisted by a crane. The unit is suspended by several thick cables. In the background, a multi-story building with a flat roof and several windows is visible. Two workers wearing hard hats are standing on the ground, looking up at the unit. The scene is set outdoors, likely at a construction or installation site.



**空冷ヒートポンプチラー
設置工事の様子**

水・排水設備、衛生器具設備、給湯設備などほか、ろ過設備、消火設備、医療設備、ガス配管、エア配管等の工事に加

各種工事を幅広く展開すると共に空調・衛生設備の工事部門と連携した効率的な施工管理によって設備工事のコスト削減も実現する。

こうしたインフラ事業に加えてZEB化事業を推進する省エネ・再エネ設備工事では高効率機器

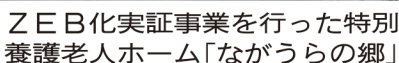
うらの郷」における実証事業としてZEB化改修工事を行った。内容としては外皮性能の向上や高効率設備機器の導入、BEMSや各種センサー制御の導入により省エネ化を図り、熱源系統のハードとして太陽熱利用設備・太陽光発電設備・蓄

昨年実施した研冷工業安全衛
協力会・第1回安全大会の様
品質管理責任者を
社内より選抜し事
にあたる。

酒井社長は、こ
うした取組みを振
り返り「分業制の
確立やひとりひと
りが健全かつ明る
く実務に従事する
といったトップダ

一冊を巨匠の足跡を記す。術者協会より「第13回カーボンニュートラル賞北信越支部奨励賞」の受賞がある。

さらに地域プロサッカーチームのアルビレックス新潟のスマイルパートナーならびにサポートカーパニーも務める。



への更新、照明のLED化、センサーによる空調や照明の運転制御、天井・壁・窓の断熱（遮熱）化など建物の省エネルギーのためのコンサルティングや工事を提案し、デマンドコン

電池設備やコージェネレーション設備を導入し、災害時にも対応可能な施設へ改修した。これにより大幅なエネルギー削減を実現させている。

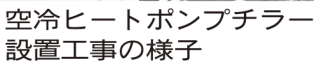
**自律目指す分業制
委ねる裁量で喚起**

さて研治工業がフオーカスされる理由はZEBなどの先進的取組みのみならず、企業としてののびにあらざる、特に設立

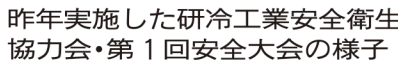
各事業部の長は取締役が務める。ファシリテイ事業部の田村正丈取締役、事業部長は「細分化されていた組織が一纏めとなり、守備範囲は拡大したが、従来の縦割りの仕組みを壊し、横串しで物事を捉えることで風通しが良くなった。互いに情報共有と横断が可能となり

ウン方式ではない新しい企業の形に近付いてきた。幸いにも人手不足に困窮する現状にあつては、当社の採用は安定的に推移し、かつ増加傾向にある、さらなる増員を見込んでいる」と話す。

さて研冷工業の強みを表すとすれば「人財」ではなからうか。極論ではあるが「仕組みの提案はトップ、精査は事業部、決裁は社員」といった



さらに給
水・排水設
備、衛生器
具設備、給
湯設備など
ほか、ろ過
設備、消火
設備、医療
ガス配管、
エア配管等
の工事に加



SOなどの品質管理を社内より選にわたる。酒井社長「うした取引り返り「ハ確立やひとり健全に実務に」といった

更新も一般社団法人建築設備技
任者を術者協会より「第13回カ
抜し事ーボンニユートラル賞
は、こ北信越支部「奨励賞」の
受賞がある。
を振さらに地域プロサッカー
業制のーチームのアルビレック
りひとス新潟のスマイルパ
つ明るーナーならびにサポ
事するン。パニーも務める。
ップダ